

LIBERA

経法大の今がわかる

[リベラ]

KEIHO MAGAZINE

91

Vol.

June 2024

留学しよるぜ！

Go Abroad!

Interviews with Students with Study Abroad Experience

Study Abroad!

未来を生き抜く学び。



大阪経済法科大学

世界中からのルームメイトとの交流が
留学体験をより価値あるものに変えた。

交換留学 国立台湾大学(台湾)



「やばい」というのが、留学先の授業での最初の感想でした。小学生の頃から中国語を勉強してきて、留学前にHSK(中国語検定)5級に合格。しかし国立台湾大学の授業は想像以上に難しく、日常会話レベルの自分の中国語力ではついていけないと感じたのです。このままではダメだと思い、私は寮のルームメイトに助けを求めました。マレーシア人とシンガポール人で、二人とも中国語のネイティブスピーカーだったので、中国語を教わりながら授業の予習復習を毎日手伝ってもらったんです。おかげで先生が話す内容もだんだん理解できるようになり、最終的には台湾の人に現地の人と間違われるほど中国語が堪能になりました。

寮では、他にもアメリカ、ナミビア、メキシコ、欧州など、様々な国から来た留学生と仲良くなりました。英語圏の人が多く、中国語が通じない時も英語で意思疎通できたのが良かったです。私は留学前、経法大の英語の授業で手厚い指導を受け、TOEIC®スコア680を取得しました。その力が世界の優秀な友人たちとの刺激的な交流に役立ち、また国立台湾大学では英語で行われる授業もあつたため、「やはり英語力は重要」と強く思います。授業では、現地学生とチームでプレゼンに挑んだのも印象的でした。「台湾から見た日本のメディア」「台湾から見た米中関係」など、日本の大学とは違う視点での学びができたのも面白かったです。学外でも積極的な交流を心がけ、家庭教師やインターンシップも体験できました。

この留学を通して、自分から行動を起こすことの大切さを実感しました。助けが欲しい時も、自分から「助けて」と言えば、道が開ける。たくさんさんの交流や体験が、自信と成長と行動力に繋がっています。台湾でのインターンをきっかけに、日本の高校生の留学をサポートする企業の内定もいただけました。留学経験や語学力が活かせる仕事です。これからが本当に楽しみです。



国際学部 国際学科 4年生
華原 琢真 さん
大阪市立南高校出身(現・大阪府立桜和高校)

留学しようぜ!

留学体験者
Interviews

Interviews with Students with Study Abroad Experience

不確実で予測不能なこれからの時代を、力強く生き抜いていくためのたくましさを身につけたい。

ならばぜひ、海外留学に挑戦してみませんか。遠い異国で初めて見るもの、初めて触れるものが与えてくれる驚きや気づきは、未来を切り拓いていくうえでの確かな礎となります。まずは体験者たちの声に、耳を傾けてみてください。

留学を迷っているなら、いまずぐ国際教育交流センターへ相談しに行こう!

素晴らしい発見と気づきを得られた
韓国での海外体験。次はカナダへ。

海外ワールドスタディ 崇実大学校(韓国)

LSP(1セメスター留学) トロント大学(カナダ)



崇実大学校の韓国語の授業ではレベルごとにクラス分けされ、私はビギナークラスで初歩から韓国語を学ぶことができました。1週間ほどで簡単な日常会話ができるようになり、飲食店でも自分でメニューを読んで注文できるようになったのがうれしかったです。学部別のテーマが設定された現地フィールドワークでは、私たち経営学部の学生は韓国の大手企業であるネイバーとサムスン電子を訪問。それぞれの経営戦略についても学び、日本以上にICT技術を重視している点など、いろいろな気づきが得られました。他にも旧朝鮮王朝王宮の景福宮や有名テーマパーク「エバーランド」で楽しい文化体験ができ、日常のなかでも日本との生活習慣の違いに驚かされるなど、毎日新鮮な発見がありました。

楽しさを満喫しながら、この海外体験を通して「自分に足りないことがたくさんある」とも自覚させられました。例えば同じクラスで学んだフランス人やドイツ人の留学生は私より英語力も知識レベルも高く、「もっと勉強しなくては!」と痛感しました。また、そうし

たいろいろなバックグラウンドを持つ人たちの交流を通して、コミュニケーションへの関心が高まりました。もともと商品開発に興味があり経営学部に入學しましたが、今後は国際経済や海外企業の経営戦略も学びながら国際コミュニケーション力を高め、将来はその知識や力を活かしてグローバル企業での営業職に挑戦してみたいと思うようになりました。

大学入学前から留学にはずっと憧れていましたが、実は少し不安もあったんです。しかし気軽に参加できる、お隣の国での短期海外体験が、すごい「最初のステップ」となりました。今年はいよいよカナダ・トロント大学での約4カ月の1セメスター留学へ。多文化共生の国でさらに視野を広げ、英語力にも磨きをかけて将来に繋がりたいと思います。



経営学部 経営学科 2年生
笠置 ちひろ さん
石川県 北陸学院高校出身



「卒業生に聞いてみました！」 留学の経験はその後、 どう活かしていますか？

楽天トラベルの海外戦略を 法務の側面からリード

楽天市場、楽天モバイル、楽天カードなど、楽天グループでは幅広くさまざまな事業を展開しています。その一つとして知られる「楽天トラベル」は、オンライン旅行予約サービスとして国内の利用者数トップの成長事業です。現在はさらにこの事業を世界へと拡大していく戦略を進めており、これを法務の側面からリードする部署で、私はマネージャーを務めています。例えば、どこか新しい国で事業をスタートさせるとなれば、旅行代理店業務の許可が必要であったり、広告を出すうえで守るべき規制があったりと、その国ごとに定められた法規を無視できません。私たちの部署では、こうした国ごとの法規について、現地の弁護士などの協力を得ながら調査し、事業戦略に落とし込んでいく、といった役割を担っています。

留学や米国のロースクールで磨いた語学力や法律の専門知識はもちろん、経法大に学びに来た留学生のアテンドなど常に積極的な国際交流に努めてきた学生時代の経験のすべてが、今に繋がっています。何より、そうして身につけた異文化理解力の重要性を、シンガポール国籍の上司をはじめ多様な背景を持つ人々と協働する今の仕事環境のなかで、改めて実感しています。



ASP | ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) [イギリス]
「語学力を高めたい」と考えて大学2年生の時に留学したロンドンで、語学力だけでなく「何か」の必要性に気づきました。

留学での失敗や挫折は 成長の原動力になる

留学でロンドン大学に向かう時、私は「英語力を磨きたい」とばかり考えていました。でも現地で出会った留学生たちの多くは「ロンドン大学で経済を学びたい」「社会科学を学びに来た」など、語学の「向こう側」に「本当に学びたい何か」を持っていたんです。「英語を

学ぶ」から「英語を使って何かを学ぶ」へ。そのフェーズへと進んだことで、私の人生が変わりました。英語で法律を学び、グローバル企業で法務のスペシャリストとして働くという道が、「ここから開かれた」のです。

学生時代には、少しでも多くの失敗や挫折を経験しておくべきというのが、私の考えです。その一つの方法として、留学をおすすめします。慣れない環境で、いろいろな試してもなかなか思い通りにできず、ようやく慣れてきた頃には留学期間が終わって、悔しい気持ちを抱いたまま帰国して…。そういった小さな失敗や挫折の積み重ねが、他の人と違う自分だけの何かを作ったり、成長の原動力になったりするんです。ぜひみなさんにも、留学を経験してもらいたいですね。

楽天グループ 株式会社

グローバルカンントリーマネジメント部
法務コンプライアンスグループ マネージャー
石谷 将太 さん

法学部 法律学科 2014年3月卒業
三重県立松阪高校出身

経法大に在学中は法律の専門学修に取り組む一方で、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) への留学など海外体験を重ねて高い語学力と国際感覚を養う。経法大卒業後、アメリカ・テンブル大学のロースクールに入学。2015年11月にアメリカで開催された日本人留学生を対象とする企業説明選考会を経て、2016年4月に楽天株式会社 (現・楽天グループ株式会社) に入社。



卒業後に進学 | テンプル大学 (アメリカ)
日本のCivil Law (大陸法) とは異なるアメリカのCommon Law (英米法) の法体系を学べ、今の仕事での様々な国の法律への対応力に繋がっています。



ロンドンとアメリカで学んだ
「法律の専門知識×英語力」を
グローバル企業で発揮しています。

2025年2月～3月出発

海外留学
参加者

募集中!!

語学力不問で、経済的にも無理なく、誰でも気軽に参加できる海外フィールドスタディ(中国)も用意。皆さんの参加をお待ちしています! ちよつとも話を聞いてみたくなったらE号館1階の国際教育交流センターまで相談しに来てください。

募集プログラム

短期留学

●海外フィールドスタディ/フィールド・プロジェクト
中国(上海)、台湾(台北)、マレーシア(クアラルンプール)

●海外語学研修

アメリカ(ハワイ)、カナダ(トロント)、韓国(ソウル)
ニュージーランド(オークランド)、オーストラリア(メルボルン)

中期留学

●韓国1セメスター留学/LSP
韓国(ソウル)

中長期留学

●交換留学(ESP)

本学の協定校で半年または1年間留学

募集期間

7月12日(金)15:00締切

お申し込み



必要書類



留学カウンセリング

随時実施(予約不要)

E号館1階

研究室への いざない

Welcome to
the Research Room

Vol.2



研究室の扉を
開いてみよう

「住宅・土地政策」の専門家として、新聞・雑誌など様々なメディアに登場し、国にも政策提言するなど精力的な活動を行っている米山教授。日本の住宅市場の大きな問題となっている空き家について、寄稿いただきました。

空き家問題解決の まちづくりからの処方箋。

日本全国で空き家の増加が大問題になっています。高齢化、人口減少が要因と考えられがちですが、日本の住宅の使い方やまちづくりのあり方が、空き家が発生しやすい構造になつていくことが根本的な問題です。

住宅が不要になつた場合、新たに使用したい人に渡すことができれば、空き家になることはありません。しかし、過去に供給された住宅は品質や手入れなどに問題があつたりして、値段がつかないことも少なくありません。

ただ、建物の価値はなくなつていても、建っている場所の土地を使いたい人がいれば、つまり土地自体に価値があれば、新たに使用したい人にその土地が渡っていくはず。その際、不要

な建物は解体されることになります。

しかし現在ある住宅の立地は、良いものばかりではありません。

これまで日本ではまちの範囲が広げられ、新築住宅が大量に供給されてきました。一方で条件が悪い物件は、次に使う人が現れず、空き家になるという状況が続いてきました。

では、空き家の発生しにくい住宅市場とはどのようなものでしょうか。これまでのあり方と全く逆になりま。まちの範囲はいたずらに広げず、その中で長持ちする住宅を建て、それが要らなくなつたら中古住宅として売却して、次の人に渡していくというものです。このような住宅市場であれば、空き家は原理的に発生しにくくなります。そこに近づけていく方法として、まちをコンパクトに縮小していくというコンパクトシティの考

空き家の発生しにくい住宅市場とは。 都市計画と経済学の 2つのアプローチから考える。

米山秀隆 教授 YONEYAMA Hidetaka

え方が重要になります。また、長持ちする住宅の建設促進も必要です。

解体費用を予め 確保するという発想。

以上は、まちづくりの観点から、空き家の発生しにくい住宅市場のあり方を目指すものです。しかし、空き家がそのまま放置されることを防ぐだけなら、他の方法もあります。空き家が放置され危険な状態になつた場合、行政が所有者に代わって解体できます。費用は所有者に請求しますが、回収できない場合もあります。

これに対して、建てた家はいずれ解体する時が来るという現実を見据えて、住宅取得の時点で所有者には、将来に必要な解体費用の確保を義務づけるという発想があり得ます。こうしておけば、将来的にたとえ所有者不明になつたとしても、解体費用は確保されているため、その費用で解体すればいいことになります。



PROFILE

米山 秀隆 [経済学部 経済学科 教授]

経済学部長

◎学位：経済学修士

◎最終学歴：筑波大学大学院経営・政策科学研究科

◎主な担当科目：地域金融論、日本経済論I・II

シンクタンクに長年勤務し、日本経済の予測を行うエコノミストとして活動してきました。併せて、住宅・土地市場に関する提言を行ってきました。『アフターコロナの都市と住まい』などたくさんの著作があります。

所有者にとつて、予め確保しておいた解体費用は、解体後の土地が売れば、回収できることになります。家の建っている土地が将来的にも価値を持つ立地なら、解体費用は回収でき、もしその方が望ましいと多くの人が考えるようになれば、そのような立地の範囲での住宅取得が促進されるようになるかもしれません。

結果として住宅の建つまちの範囲は狭くなる可能性があり、コンパクトシティとの接点が出てきます。住宅取得時に解体費用も含め、新たな負担をどのように課すかによつて、まちの範囲をコントロールできることが、ここまでの話でわかると思います。

この考え方は経済学に基づくものですが、まちをコンパクトにする都市計画的な発想は経済学的アプローチでも実現できるわけです。住宅・土地に関わる問題は、都市計画、経済学、法学など様々な学問分野が関わってくる興味深い分野です。